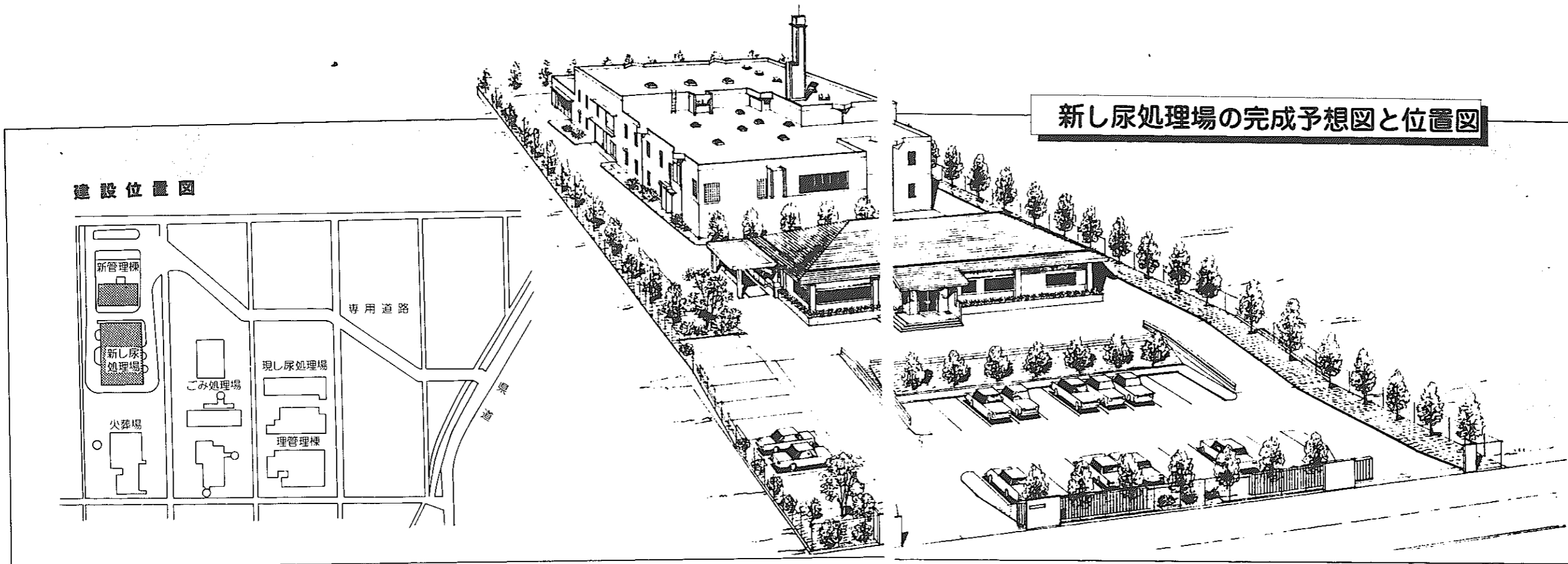


最新処理方式を備え60年に完成

新し尿処理場の完成予想図と位置図



総事業費は十三億円

白根衛生センター組合（管理者・吉沢市長）では、収集人口を約六万人に想定した新しい「し尿処理場」を、火葬場の東側に建設中です。

この事業は、現施設が古くなったことと、将来の人口増加に対応するため、総事業費十三億三千万円で、五十八年度から三か年継続で取り組んでいくものです。

敷地面積六千四百一十平方メートルについては、すでに五十八年度中に買収と造成は終わり、今年度と来年度にかけてし尿処理場と管理棟の建設工事が進められます。

なお、総事業費のうち白根市の負担額は、五十八年度が六千四百万円。五十九年度分として五千百万円が見込まれています。

周辺環境の保全を重視

新しい処理場は地下一階、地上二階の鉄筋造りで建築延面積は二千六百七平方メートル。管理棟は鉄骨の平屋建てで延面積は四百八十八平方メートルです。

処理場の特徴としては、悪臭と騒音を外部に出さないよう入口や窓を二重にするなど、工夫されています。また、処理方式は「攪拌遠心分離式

高負荷処理」を、県内で三番目に取り入れます。

この方式は、従来のように水を多量に使い、し尿を薄めて処理する方法とは違い、汚物を処理するバクテリア菌を多量に発生させて処理しますから水をほとんど使いません。

したがって処理後の汚水量も少なく、しかも汚水度の数値は、飲み水として利用している琵琶湖の水より低くなること、衛生センターでは話しています。

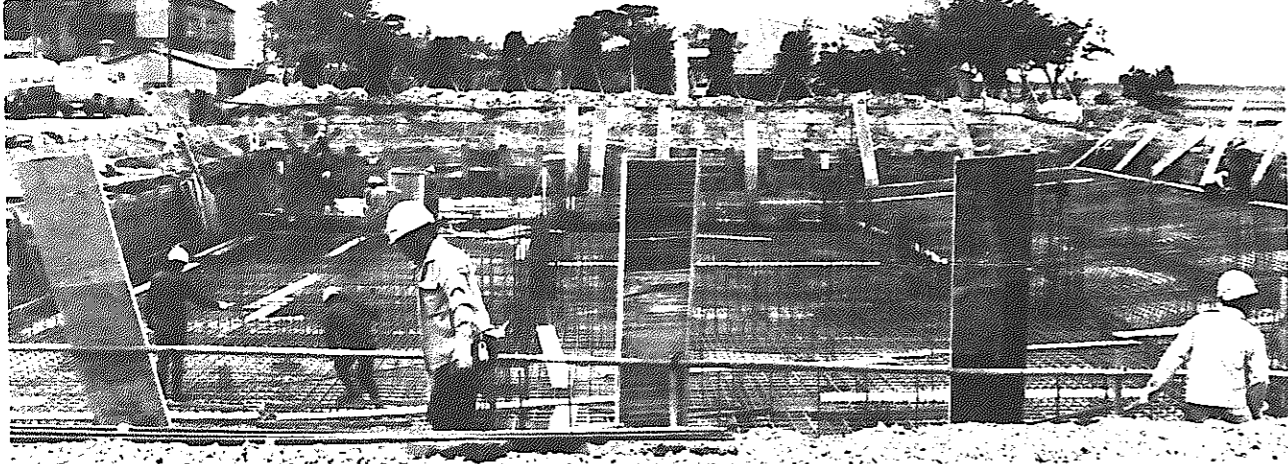
快適な生活を支える

大切な施設

し尿処理施設は、公園や文化会館などの都市施設の中で、どちらかと言えばあまり目立たない施設です。

しかし、私たちの快適な生活を支えるのに、これほど大切な施設もありません。

し尿収集と処理業務について、衛生センターでは「現施設の能力は、一日当たり八十キロの処理できることになっていますが、十八年の歳月で、機械能力そのものが落ちていきます。今、センターへ運び込まれる一日の量は約七十七キロ（収集車四十四台分）で、どうにか処理している状況……」と、一日百キロの処理能力を持つ、新しい施設の完成を心待ちにしています。



新処理施設の基礎工事



現在の処理場